

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475300693	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	工藤建設株式会社		
事業所名	グループホームフローレンスケア たかつ		
所在地	(〒213-0026) 神奈川県川崎市高津区久末1744-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		エット数	2エット
自己評価作成日	令和2年8月26日	評価結果 市町村受理日	令和2年10月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭の延長の様な温かな雰囲気作りとコンセプトである『心地よさ』を追求すべく努力をしている。その為にもその人（入居者）を知る事の大切さを意識し毎日が新しい発見の時でありアセスメントであると意識している。入居者の出来ない事に目を向けるのではなく、何が出来るのかの視点で考え手助けしながら自立した張りのある生活につなげていきたい。</p> <p>また、楽しみの一つでもある食事については、簡易的なものではなく、できるだけ手作りのものを、できるところまで一緒に作り、美味しく毎日食べる事で健康を維持していきたい。</p> <p>スタッフには、ご入居者の日々の生活の中にリハビリを意識し、機能訓練指導員または看護師等にもアドバイスをもらいADLの低下を防いでいきたい。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年10月6日	評価機関 評価決定日	令和2年10月19日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 「グループホームフローレンスたかつ」は、JR南武線武蔵溝ノ口駅と東急田園都市線溝ノ口駅、または、南武線の武蔵新城駅からバス便で20分ほどの閑静な住宅地にある。建物は鉄骨造り2階建てで、1階に同一法人のデイサービスを併設している。フロアはゆったりと広く、職員が見守りをしやすいレイアウトになっている。敷地内には野菜畑と花壇があり、利用者の憩いの場所になっている。</p> <p>【理念に基づく心地良い生活支援の追求】 利用者の尊厳を尊重し、利用者が自分の家にいるときと同じように、毎日心地よく過ごすことを念頭に置いた支援をしている。管理者以下職員は、常に利用者の思いに寄り添い、利用者のおと漏らす言葉や、表情の変化も詳細に日々のケア記録に書き入れ、職員間で共有している。詳細な記録をもとにモニタリングを重ね、介護計画作成につなげている。介護計画の作成には家族も交えた担当者会議を行い、家族の意見や要望も反映させ、利用者が自分らしく毎日心地よく過ごせる生活を支援している。</p> <p>【法人のバックアップ体制】 同一法人の有料老人ホームやデイサービスなどと連携や協力体制がある。月1回、系列事業所の機能訓練指導員である作業療法士が来訪し、利用者の生活の中にリハビリを取り入れるアドバイスをしている。職員の資格取得にはお祝い金を支給し、外部研修受講は業務の一環として出張扱いにするなどしている。コロナ禍以降のオンライン研修の導入においては、職員が自宅などでオンライン研修を受けた場合も勤務時間とみなし、時給を支払っている。</p> <p>【きめ細やかなケアの実践】 生活の中での利用者の感情の起伏や、表情の変化などを細かく観察して記録し、ケアプランに反映させている。年2回の家族懇談会や、家族も参加する担当者会議、日常の電話連絡など家族とのコミュニケーションを大切にしている。コロナ禍以降家族との面会や遠出の外出、地域行事などが中断しているが、オンライン面会を行ったり、近くのコンビニや床屋に出かけたり、1日何回も庭に出て外気に当たるなどきめ細やかな配慮をしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。	法人の事業理念を朝の朝礼で確認をして職員は一日の業務に就いている。また年度の初め（7月）に事業所の業績や予算などの数字も含めて職員に伝え、コスト意識を持つようにしている。毎年職員とともに事業所目標を立案してケアの指針としている。今年度の事業所目標は、コミュニケーションを大切にした風通しの良いグループホームづくりとデイサービスと合同の感染症対策の強化である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物しながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。 また、月1回自主的な地域清掃をご入居者も一緒に取り組んでいる	開設当初から地域に根差した事業所を目指し、地域清掃や行事に積極的に参加をしたり、小学生の社会学習を受け入れ、交流している。コロナ禍以降は併設のデイサービスと合同のレクリエーションや、ボランティアの訪問も自粛している。近隣の散歩や買い物、地域清掃に参加する際は、利用者もマスク着用などの感染症対策をして出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考になっている。	コロナ禍以前は2か月ごとに利用者、家族、町内会副会長、地域の別法人の小規模多機能型居宅介護事業所の職員、地域包括支援センター職員が参加をし、運営報告を行ったり地域情報などについて意見交換をしていた。家族の面会も自粛しているため、今年度の開催はまだできていない。地域情報は回覧板の他、近くに住んでいる町内会副会長から提供を受けている。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。	高津区橘地区グループホーム連絡会に参加し、地域包括支援センター職員や、他のグループホーム職員と意見や情報の交換をしている。昨年度から交換研修の話があったが、コロナ禍ということで実現していない。川崎市主催の感染症や認知症研修、実践者研修に参加をしている。生活保護を受給している利用者の相談などで、区の保護課の担当職員と連携を取っている。	
---	---	--	-------------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フロアに「身体拘束の手引き」の資料をスタッフの目の届く場所に置いてある。玄関19:00~6:30迄は防犯の為施錠しているが各フロアの出入口に関しては開放している。	管理者、計画作成担当者、看護師、フロアリーダーが参加する「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催している。職員研修も併設のデイサービスと合同で年2回実施している。玄関は通常外からの出入りは自由で、内側は不意の外出に備えロックしている。2つのフロア間は自由に行き来でき、階段昇降が不安な方には職員が付き添っている。エレベーターも自由に利用することが出来る。リビングでは、座位が保持できる方は車いすから椅子に移乗している。	定期的に「身体拘束廃止委員会」を行っていますが、毎回同じ内容になっている傾向があります。議題に日々のケアの中で気になったことなどを固定メンバー以外から挙げてもらったり、一部参加メンバーの変更や、他事業所の事例などを取り上げるなどして多様な意見を検討されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で尊厳について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識づけ防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できる様にしている。又外部研修においての資料をもとに、会議等を通してフィードバックしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。</p>	<p>毎月の広報誌で利用者の様子を伝えたり、年2回の家族懇談会の他に、担当者会議や面会時などにも家族と話す機会を設け、家族の意向を運営や利用者のケアに生かしている。家族の、もう少し職員が利用者にかかわる時間を増やせないかという意見を踏まえ、調理専門スタッフを雇用し、職員がケアに専念できる時間を増やしている。新型コロナの感染防止対策として家族などの面会を自粛していたが、希望する家族にはオンライン面会を取り入れ、毎月の請求書を送る際に、オンライン面会ができる旨を案内している。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議（カンファレンス実施時と同時に）を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。	年1回、年度初め（7月）に今年度の事業方針を共有する全体会を行っている。毎月のケアカンファレンスを兼ねたフロア会議では職員が運営や日々のケアの問題などについて活発な意見交換をしている。感染症予防対策として衛生面の強化も職員から提案があった。フロア会議には休みの職員や夜勤専門の職員も参加している。日々の申し送りでも緊急の問題などを話し合いすぐにケアに反映させている。年1回個人面談を行い、資格取得や受講希望の研修、個人的な要望や心配事などを聞き取っている。研修費用は会社負担で出張扱いとし、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得は自費だが取得した際は祝い金が出ている。コロナ禍以降オンライン研修を取り入れているが、受講にかかる時間には時給を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない又それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>高津区橘地区におけるグループホーム会議を各ホームが持ちまわりで年4回主催し、同業者との情報交換の場としている。又同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当の設置をし、アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し話しやすい環境を作り安心感を持って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	窓口を一つにして面会時や電話の際傾聴し要望等があった際、記録に残し対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に出来る事を見つけスタッフはサポートとして家事等共に行い生活している中で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時及び電話連絡の際現状の様子をお伝えしたり、一緒に参加出来る行事等企画をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛ける様スタッフも協力している。	毎月往診に来ている医師や看護師、歯科医師は顔馴染みの関係になっている。おやつや日用品を買いに行くコンビニなども馴染みの場所である。また、法事などの家族だけでは対応が難しい時間がかかる集まりには、職員が同行する場合もある。コロナ禍以前は友人、知人の来訪があったり、将棋好きな方が近くの将棋クラブに通う支援もしていた。読書好きな方には職員同行で図書館に本を借りに出かけるなど、以前からの趣味の継続や友人との交流を支援していたが、現在は中断している。外出時に化粧をしたり、テレビガイド、新聞を購読するなど生活習慣の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子から人間関係を把握している。スタッフの関わりを多くし対応している。レクリエーションや家事等提供しながら関係作りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族などとも、不定期ですがイベントのお誘いや連絡等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の意向等を聞き取り、ケアカンファレンス等で話し合い共有し検討している。	利用者の思いや意向に寄り添うために、利用者の表情の変化や、ふと漏らした言葉も日々の業務日誌やケア記録に記載することを大切にしている。利用者の多くの情報を共有することで的確なモニタリングにつなげ、ケアプランに反映している。終末期や看取り時の利用者の苦痛緩和のため、利用者の小さな表情の変化も見逃さないように詳細に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。その為記録の書き方の研修を受け記録の充実を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者や居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。	介護ソフトを活用して日々の「サービス提供記録」（1日の活動や受診記録、医療処置、家族との連絡等を記録）と業務日誌の「ケース記録」を連動させた申し送りで、利用者のケアの統一につなげている。「利用者・家族等の意見の検討記録」には、日常の利用者のふと発した言葉や、何気ない動作、表情の変化、また家族との会話などを詳細に記録し、毎月のモニタリングの参考にしている。介護計画作成時には家族も参加してもらい意見や要望を聞き、プランに反映させている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面などの相談があり、ここでの生活に支障が出た場合ご本人・家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物の際、近隣の方々と挨拶から馴染みとなり会話を楽しんだり、小学生の体験学習の受け入れ等を行い、地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携をとり、医師の指示にて受診介助を行なっている。	協力医(内科)の月2回の往診を利用者全員が受診している。眼科(隔月)と歯科(毎月)の往診もあり、必要な治療が受けられる。従前からのかかりつけ医受診は基本家族対応だが、職員が通院介助をすることもある。専門医受診の際は「医療情報提供書」を医師に提出している。他科の受診結果は「受診報告書」に記録し、協力医の往診記録とともに職員間で共有している。非常勤看護師が週4日配置され、利用者の健康管理や重度化した方の対応など医療面を支えている。協力医は夜間、急変時なども24時間、オンコールで対応してくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時に相談し対応している。急な場合は看護師へのオンコールや協力医療機関の往診医へ相談している。又併設のデイサービスの看護師への協力相談も時として行っている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時看護介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様努めている。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営懇談会にて終末期のあり方について話し合い、順次往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。	契約時に「看取り介護に関する指針」を家族に説明している。医師が終末期と判断した場合は医師同席の下、家族に看取り介護について説明をしている。終末期や看取り介護の際は、ケア記録に、利用者の表情の変化も含めた状態を詳細に記録して職員間で共有し、チームケアに取り組んでいる。看護師による看取りの研修を毎年行い、看取り後の振り返りも行っている。開所以来11名の看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様にしている。主要の連絡先も壁に張り出している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中及び夜間を想定して実施している。地域推進会議の地域住民代表の方とも話し合いを持っている。	今年度は8月に日中を想定した避難訓練を併設のデイサービスと合同で行っている。もう1回は夜間想定避難訓練をグループホーム単独で行う予定にしている。避難訓練に当たり、「避難訓練・通報訓練の流れ」を作成し、それに沿って訓練をしている。訓練では避難済みの部屋にガムテープを張り、目印にしている。備蓄や備品は「非常災害時用備蓄品リスト」に保管場所、数量、使用期限などを明記して備えている。また、非常食献立も3日分用意している。ハザードマップを事務所内に掲示し、職員緊急連絡網なども整備されている。	避難訓練時に地域に協力を呼びかけていますが、実現できていません。非常災害時に事業所が併設のデイサービスとともに地域に対して協力できることの提案を検討されることを期待します。併せて地域の消防団への協力要請や、すぐ近くのグループホームと協力関係を築かれることを期待します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本部研修や内部研修を行い、ユニット会議等で言動に注意する様伝えている。	年間研修計画に基づいてプライバシー保護、倫理、法令順守、個人情報保護、接遇の研修を実施している。トイレ誘導時利用者の羞恥心に配慮し、周囲に気付かれないように小声でさりげなく誘導することを心掛けている。排泄、入浴チェック表などは、利用者から見えないところに保管して記録している。緊急時や通院時に持ち出す保険証などは各フロアに個別のファイルを用意している。個人情報を含む書類は事務所内の書庫に施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入りご本人の意思にて行っている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。メニューは家庭料理がメインだが、入居者の希望や検食簿等から毎月見直し、量も個々に合わせた量を提供している。</p>	<p>朝食の食材は職員が購入するが、昼食、夕食はレシピ付きの食材を業者委託している。専任の調理スタッフが3食とも調理をしている。利用者も包丁を使った下ごしらえや、盛り付け、片付けなどできることを手伝っている。季節の行事に合わせ、おはぎや桜餅、海苔巻きなどを職員とともに手作りして楽しんでいる。誕生日はおやつの時間に好みのケーキやゼリーなどでお祝いをしている。コロナ禍以降は外食もできなくなっているが、毎日の食事を大切にしている。調理の音や臭いなど利用者の五感を刺激することで、利用者が時間の経過を意識することができていると職員は感じている。食事の量が足りないという方には、主治医に確認を取り、量を増やすなどの対応をしている。</p>	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量の少ない方には嗜好品をこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあつた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し適度な運動（腹筋運動等）を心がけ失禁の無い様心掛けている。	排泄チェック表で利用者の排泄状況を把握し、利用者に合わせて、さりげないトイレ誘導をしている。カテーテルで導尿している方も泌尿器科の医師と連携し、経過などを記載した排泄記録やケース記録を職員間で共有して、利用者が尿意を感じた際にはトイレでの排泄支援をするなどきめ細かいケアに当たっている。布パンツ使用の方が4～5名、夜間だけオムツ使用の方が1名。夜間ポータブルトイレを使用する2名の方も日中はトイレで排泄している。トイレ内は感染症予防対策として清掃時は手すりなどを消毒している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分も1日1500CC以上摂れる様こまめに提供している。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴をし時間も20分～50分程かけ入って頂いている。但し、曜日はほぼ毎日提供しているが、時間は9：00-16：00の間と限らせている。</p>	<p>入浴は、利用者の希望や体調を考慮して週2～3回、9時～16時の間で対応している。季節の柚子湯や菖蒲湯、利用者の好みが入浴剤などで入浴を楽しめるようにしている。湯は毎回交換して清潔の保持に努めている。湯船に入れない方はシャワー浴で対応している。冬場は浴室暖房機と脱衣場のエアコンでヒートショックに備えている。好みのシャンプーなどを持ち込み、入浴を楽しむ方もいる。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し好きな時間に穏やかな気持ちになって頂ける様に声を掛け休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローアに置き開示し、薬局の薬剤師が毎週金曜日に配薬を1週間分セットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の好きな方には材料を切ったり洗い物をしたりと積極的にして頂いたり、歌の好きな方には大きな声で歌って頂き楽しみながら生活をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子の話を近隣の方ともしている。男性のご入居者は近所に床屋があるので、毎月床屋さんまで歩いて行きカット髭剃りをしている。	コロナ禍以降、地域行事の中止や、恒例の動物園やバラ園見学、日帰り旅行などができなくなっている。天気の良い日には外の風を感じられるように近くのコンビニへ買い物に出かけたり庭に出て野菜を収穫したり、花を見たりと気分転換を兼ね、少しの時間でも頻繁に外に出て外気に触れることを心掛けている。個別対応でスーパーへ車で買い物に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があれば近隣のコンビニ等で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や連絡が来た際電話の取次ぎを行っている。手紙の場合も一緒に切手を買ってポスト迄投函しに行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんで頂いている。	専門業者が年2回、フロアのワックスがけや空調、キッチン、窓ガラスなどを定期清掃している。毎朝ラジオ体操後の職員と一緒に清掃は、利用者の日課にもなっている。季節に合わせてフロアの壁にレクリエーションで作った貼り絵などを飾っている。利用者はソファでくつろぎながらテレビを見たり、テーブルで塗り絵を楽しんだりしている。一人でホッとしたい時のスペースも用意されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合うお仲間と過ごせる空間があり、飾りなどにより話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活して頂いている。	エアコン、クローゼット、照明、介護ベッドが備え付けで用意されている。利用者は使い慣れた鏡台、チェスト、机、椅子などの家具や仏壇などを持ち込み、家族とともに趣味の絵や家族の写真を飾り居心地の良い部屋にしている。利用者は自室で新聞を読んだり、テレビを見たり、くつろいだ時間を過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確保している。			

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物をしながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。また、月1回自主的な地域清掃をご入居者も一緒に取り組んでいる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フロアに「身体拘束の手引き」の資料をスタッフの目の届く場所に置いてある。玄関19:00～6:30迄は防犯の為施錠しているが各フロアの出入口に関しては開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で尊厳について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識づけ防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できるようにしている。又外部研修においての資料をもとに、会議等を通してフィードバックしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議（カンファレンスと同時に）を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様にしてている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない又それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高津区橋地区におけるグループホーム会議を各ホームが持ちまわりで年4回主催し、同業者との情報交換の場としている。又同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当の設置をし、アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し話しやすい環境を作り安心感を持って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	窓口を一つにして面会時や電話の際傾聴し要望等があった際、記録に残し対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に出来る事を見つけスタッフはサポートとして家事等共に行い生活している中で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時及び電話連絡の際現状のご様子をお伝えしたり、一緒に参加出来る行事等企画をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛ける様スタッフも協力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子から人間関係を把握している。スタッフの関わりを多くし対応している。レクリエーションや家事等提供しながら関係作りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族などとも、不定期ですがイベントのお誘いや連絡等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の意向等を聞き取り、ケアカンファレンス等で話し合い共有し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。その為記録の書き方の研修を受け記録の充実を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者と居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面の相談があり、ここでの生活に支障が出た場合ご本人・家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物の際、近隣の方々と挨拶から馴染みとなり会話を楽しんだり、小学生の体験学習の受け入れ等を行い、地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携をとり、医師の指示にて受診介助を行なっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時に相談し対応している。急な場合は看護師へのオンコールや協力医療機関の往診医へ相談している。又併設のデイサービスの看護師への協力相談も時として行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営懇談会にて終末期のあり方について話し合い、順次往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様になっている。主要の連絡先も壁に張り出している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中及び夜間を想定して実施している。地域推進会議の地域住民代表の方とも話し合いを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本部研修や内部研修を行い、ユニット会議等で言動に注意する様伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日々家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入りご本人の意思にて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。メニューは家庭料理がメインだが、入居者の希望や検食簿等から毎月見直し、量も個々に合わせた量を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量の少ない方には嗜好品をこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあった口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し適度な運動（腹筋運動等）を心がけ失禁の無い様心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分も1日1200CC以上摂れる様こまめに提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴をし時間も20分～50分程かけ入って頂いている。但し、曜日はほぼ毎日提供しているが、時間は9：00-16：00の間と限らせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し好きな時間に穏やかな気持ちになって頂ける様に声を掛け休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローアに置き開示し、薬局の薬剤師が毎週金曜日に配薬を1週間分セットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の好きな方には材料を切ったり洗い物をしたりと積極的にして頂いたり、歌の好きな方には大きな声で歌って頂き楽しみながら生活をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子の話を近隣の方ともしている。男性のご入居者は近所に床屋があるので、毎月床屋さんまで歩いて行きカット髭剃りをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があれば近隣のコンビニ等で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や連絡が来た際電話の取次ぎを行っている。手紙の場合も一緒に切手を買ってポスト迄投函しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアーの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合うお仲間と過ごせる空間があり、飾りなどにより話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確認している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHフローレンスケアたかつ

作成日 令和2年10月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について、地域との共同防災訓練が出来ておらず、地域からの協力を得られていない。	地域の方も防災訓練に参加してもらえい、地域の方から協力を得られる。	まずは事業所を知ってもらうために、こちらから積極的な地域行や地域の防災訓練に参加し、近隣へのアピールと参加の促しを図る。	1年間
2	6	身体拘束廃止委員会の会議時の議題について、毎回同じ内容となっている傾向である。	日々のケアの中で気になった事などメンバー以外から挙げてもらい、会議の議題が多様な意見が検討される。	スタッフ全員が、日々身体拘束について意識しケアを行い、気になった事を委員メンバーへ小さなことでも挙げれる仕組みをつくり実施していく。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。